

海外事業の取組み

CHICHIBU CHEMICAL CO.,LTD.



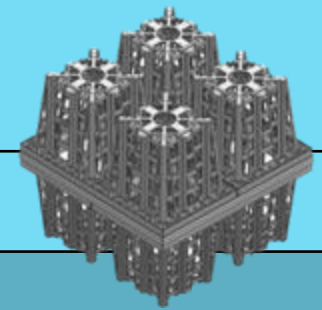
～ 目 次 ～

1. 企業概要
国内実績
2. 地下貯留槽実績
3. 海外事業の概要
4. JICA事業の経験を活かし
その先へ...
5. 2025年度 JICA採択事業
6. 今後の展開



1. 企業概要

秩父ケミカル株式会社



創業（設立）年月 1990年4月／April, 1990

資本金 1000万円

所在地
本社 東京都千代田区外神田5-2-3 JR外神田ビル
北関東事業所 茨城県水戸市河和田町3440番2
大阪出張所 広島出張所
Tokyo, Ibaraki, Osaka, Hiroshima

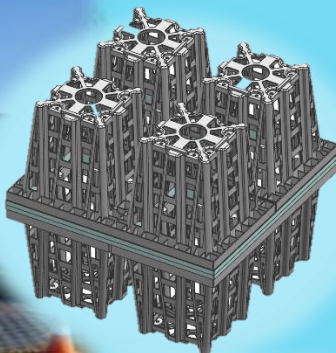
事業内容
洪水時の雨水流出抑制や浸水被害の軽減、地下水涵養、雨水利用を目的として、プラスチック製の構造体をシートで被包し、地中に雨水の貯留空間を構築する「プラスチック製雨水貯留構造体」（以下、PRSS（Plastic Rainwater Storage Structure））とその附帯設備の製造・販売。
設計・施工担当者向けにPRSSを設置する際に必要となる雨水計算の作成・図面作成サービス等の支援も実施。
We have developed plastic rainwater storage and infiltration facilities and ancillary maintenance products. Our technologies are used for control of flood outflows and land subsidence as well as for rainwater utilization.

1. 企業概要(国内実績)

埼玉県内某市立小学校グラウンド下

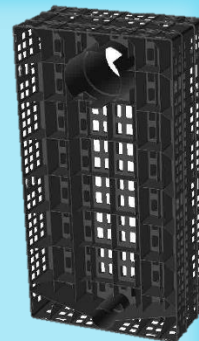


雨水貯留槽



ニュープラくん

埼玉県内某市土地区画整理事業



ニュートレンチくんⅡ



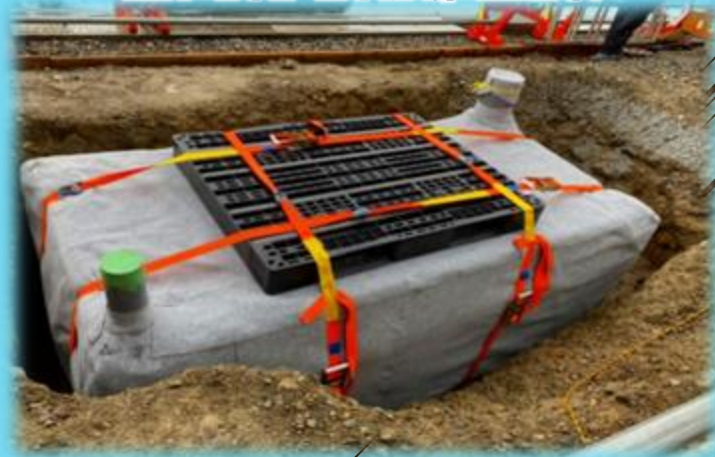
浸透トレンチ

茨城県内某ドラッグストア



貯留槽組立の様子

富山県内某民間企業



雨水利用槽

2. 地下貯留槽実績（国内実績）（公社）雨水貯留浸透技術協会作製資料

2. 施工実績推移（プラスチック製＋コンクリート製）

2-1. 件数／1997(H9)～2025(R7)単年度＆累計



2. 施工実績推移（プラスチック製＋コンクリート製）

2-2. 容量／H9～R7単年度＆累計



3. 海外事業の概要

インドネシア国 プラスチック製雨水貯留浸透施設の普及・実証事業
契約工期：2015年1月～2016年9月

“Verification Survey with the Private Sector for Disseminating Japanese Technologies for Building the Rainwater Runoff Control System Using Plastic Rainwater Infiltration and Storage” in Indonesia



**(公社) 雨水貯留浸透技術協会
協力の下、モニタリングを実施**

**PRSS浸透型を現地作業員でも
施工可能なことを実証**

**現地に特化した
PRSS技術指針の必要性を痛感**



日本との地中温度の差異を確認



3. 海外事業の概要

タイ国 プラスチック製雨水貯留構造体の案件化調査

契約工期：2017年8月～2018年9月

“Feasibility Survey for Plastic Rainwater Storage Structure” in Thailand



現地での打合せや調査の結果を踏まえ、適切な設計・施工を行うことで、
タイ国でもPRSSは適用可能と判断

国土交通省や（一財）先端建設技術
センターが主催するセミナー等を通じて、
バンコク都などの行政機関へPR



3. 海外事業の概要

タイ国 浸水被害の軽減に寄与するプラスチック製 雨水貯留構造体の普及・実証・ビジネス化事業

契約工期：2019年5月～2023年1月

“SDGs Business Verification Survey with the Private Sector for Plastic Rainwater Storage Structure to Prevent Inundation Damage” in Thailand



PRSS貯留型を現地作業員でも
施工可能なことを実証

(公社) 雨水貯留浸透技術協会協力の下、
タイ国に特化したPRSS技術指針案を作成



現地モニタリングを通じて
遮水シートの遮水性能等を確認



環境省や国土交通省等が主催する
セミナー等を通じて、関係各所へPR

4. JICA事業の経験を活かして、その先へ・・・

タイ国の首都であるバンコク都の公園再整備事業への採用

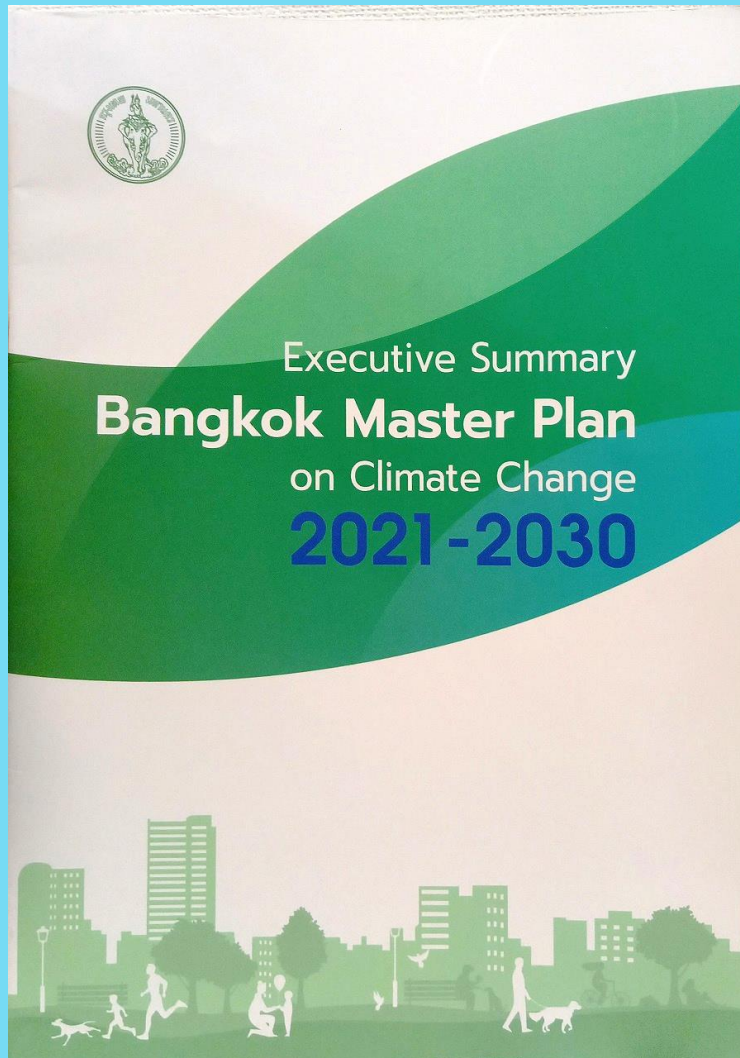
Water Bank in Ratchavipha



4. JICA事業の経験を活かして、その先へ・・・

バンコク都気候変動マスタープラン 2021-2030 への掲載

Bangkok Master Plan on Climate Change 2021-2030



List of Adaptation Measures

12

List of Adaptation Measures



4. JICA事業の経験を活かして、その先へ・・・

竣工前の事業のため詳細は避けるが、現在複数の物件でPRSSが施工あるいは検討されている

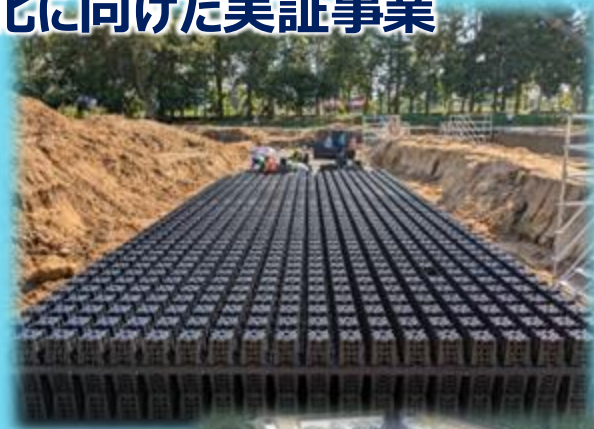


4. JICA事業の経験を活かして、その先へ・・・

グローバルサウス事業への参加

タイ王国／プラスチック製雨水貯留構造体を用いた農業分野における雨水利用と
同構造体技術指針の標準化・一般化に向けた実証事業

事業期間：2025年2月～2025年12月



5. 2025年度 JICA採択事業

中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz） ビジネス化実証事業

案件名：ベトナム国

冠水被害軽減に向けたプラスチック製雨水貯留構造体におけるビジネス化実証事業

事業契約期間：2026年5月～2028年11月



2025年度 JICA Bizビジネス化実証事業への採択が決定

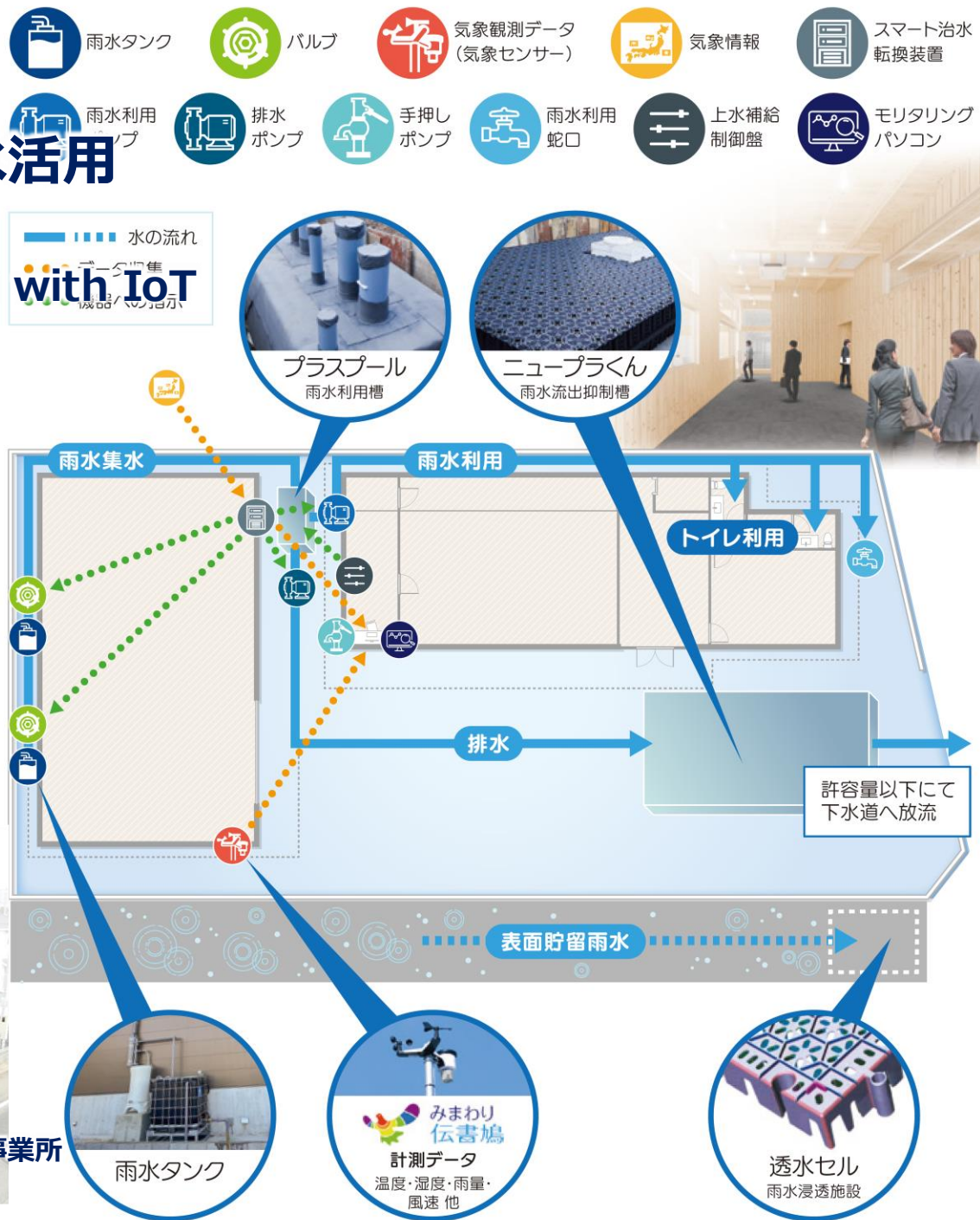
ハナム省に建設中のHanoi Univercity of civil engineeringハナム校敷地内への雨水貯留槽設置に向け活動中

導入効果を検証するとともに海外展開の拡大を目指す

6. 今後の展開

IoTを活用したスマート雨水活用 への挑戦

Smart Rainwater Harvesting with IoT



6. 今後の展開（日本で求められる次の一手）

開発規制依存の「点」整備から、官主導の「面」整備へ

開発規制に任せるだけでは、気候変動時代の流出抑制は追いつかない

これまで

民間設置が8割以上 開発規制に「漏れ」

開発規制に伴い、地下貯留槽の設置実績を拡大
公共での設置が2割以下

小規模の開発面積は、開発規制でカバーできず、流出抑制に空白が残る

これから

官主導で劇的に拡大

大雨が頻発する時代へ。
バンコク等の事例に学び、
都市全体に戦略的に面的導入



結論

地下貯留槽を「個別開発の付帯設備」
から「都市防災インフラの主役」へ



（出典：ARSIT公開資料）

「雨水貯留浸透施設の設置に対する支援措置のご紹介」

ご清聴ありがとうございました



<http://www.titibu.co.jp/>

【2027年 国際園芸博覧会に施設(雨水利用槽)設置を協議中】